

台湾の歴史

台湾は中国の一部との主張は、疑問が残る

台湾の島の歴史は、数万年前に人間の居住の最も初期の既知の証拠にまでさかのぼります。

紀元前3000年頃の農業に基づく文化の突然の出現は、今日の台湾先住民の祖先の到来を反映していると考えられています。

この島は、17世紀にオランダ人によって植民地化され、その後、台湾海峡を越えて、中国本土の福建省と広東省からの客家移民を含む閩南民が流入しました。

スペイン人は短期間 北に集落を建設しましたが、1642年にオランダ人によって追い出されました。

1662年、1644年に中国本土の支配を失った明王朝のロイヤリストである鄭成功は、オランダ人を打ち負かし、島に作戦基地を設立しました。

彼の軍隊は1683年に清王朝に敗北し、台湾の一部は清帝国にますます統合されるようになりました。

1895年の日清戦争後、清は澎湖とともに島を大日本帝国に譲渡しました。

台湾は、日本帝国に輸出するための米と砂糖を生産し、また、日本の東南アジアと太平洋への侵略の拠点としての役割も果たしました。

第二次世界大戦中。日本の帝国教育は台湾で実施され、多くの台湾人も戦争中に日本のために戦った。

1945年、第二次世界大戦での敵対行為が終了した後、国民党（KMT）が率いる中華民国（ROC）が台湾を支配しましたが、領土主権の移転はありませんでした。

1949年、中国内戦で中国本土の支配を失った後、国民党政権下の中華民国政府は台湾に撤退し、蒋介石は武法を宣言した。

国民党は台湾を統治しました（台湾海峡の反対側にある金門島、烏キウ郷、松島とともに）一党制として、1980年代の民主的改革まで、1996年に初の直接大統領選挙に至りました。

戦後、台湾は「台湾」として知られる急速な工業化と経済成長を経験しました。ミラクル、「アジア四小龍」の1つとして知られていました。

更新世後期の海面は現在より約140m低く、浅い台湾海峡の床が本土の動物相が交差する陸橋として露出していた。

澎湖諸島と台湾の間の水路で、澎湖1と呼ばれる部分的な顎骨を含む脊椎動物の化石が集中していることがわかりました。

これは、これまで知られていなかったホモ属の種に属すると思われます。

これらの化石の年代は450~190kyaです。

台湾における現代人の存在の最も古い証拠は、左鎮区のチョウクとガンジリンで見つかった3つの頭蓋骨片と臼歯で構成されています。

これらは2万年から3万年前と推定されています

最古の遺物は、台東県長浜の4つの洞窟で発見された、15,000~5,000年前の旧石器時代の古石器であり、福建省の現代の遺跡に似ています。

同じ文化が台湾の南端にある鵝鑾美の遺跡にも見られ、5,000年前まで続いています。

日月潭の堆積物中の孢子と花粉粒の分析は、焼畑の痕跡を示唆しているこの地域での農業は11,000年前から始まり、4,200年前に稲作の残骸が豊富にあった時期に終わりました。

10,000年前の完新世の初めに、海面が上昇し、台湾海峡を形成し、アジア本土から島を切り離しました。

2011年12月、リャン島で約8,000年前のリャンダオマンの骨格が発見されました。

2014年、骨格のミトコンドリアDNAはハプログループEに属し、4つの変異のうち2つがE1サブグループに特徴的であることが判明しました。

台湾で発見された唯一の旧石器時代の埋葬は、フィリピンで発見されたネグリトに似たタイプの男性の、紀元前4000年頃にさかのぼる島の南東のXiaoma洞窟にありました。

中国語のテキストや台湾原住民の口承の伝統には、過去のある時期に島のピグミーへの言及もあります。

紀元前3000年頃、新石器時代のダペンケン文化が突然現れ、島の海岸に急速に広まりました。彼らの遺跡は、縄目土器、磨かれた石の斧、スレートの点が特徴です。

住民は米やキビを栽培していましたが、海の貝や魚にも大きく依存していました。

ほとんどの学者は、この文化は長浜文化に由来するものではなく、初期のオーストロネシア語を話す今日の台湾原住民の祖先によって海峡を越えてもたらされたと信じています。

これらの人々の何人かは、後に台湾から東南アジアの島々に移住し、そこから太平洋とインド洋に移住しました。

マレー語-ポリネシア語現在、マダガスカルからハワイ、イースター島、ニュージーランドまでの広大な地域で話されていますが、オーストロネシア語族の1つの支部のみを形成し、残りの支部は台湾でのみ見られます。

フィリピンとの貿易関係は、フィリピンの翡翠文化における台湾東部の翡翠の使用を含め、紀元前2千年紀の初めから続いた。

Dapenkeng文化は、TahuやYingpu文化を含む、島全体のさまざまな文化に引き継がれました。

鉄は、現在の時代の初めに、ニャオソン文化などの文化に登場しました。[20] 初期の金属工芸品は貿易品でしたが、西暦400年頃までに、フィリピンから導入された可能性のある技術である塊鉄炉を使用して、錬鉄が地元で生産されていました。

初期の中国の歴史は、一部の歴史家が台湾と同一視している東部の島々への訪問を指します。

呉の三国時代の軍隊は、3世紀にYizhou（夷洲）として知られている島を訪れたと記録されています。

隋の書は、隋王朝の煬帝が7世紀初頭に「琉球」と呼ばれる場所に3つの遠征隊を送ったと述べています。

後に劉秋（その文字は日本語で「琉球」と読まれる）という名前は台湾の北東にある島の鎖を指していたが、一部の学者はそれが隋時代の台湾を指していたかもしれないと信じている。

沖縄本島中国人からは「大劉球」、台湾からは「小劉球」と呼ばれていました。

元王朝のクビライ・カーンは、1292年に元王朝への忠誠を要求するために琉球王国に役人を派遣しましたが、役人は台湾に行き、沖縄と間違えました。

3人の兵士が殺された後、代表団はすぐに中国の泉州に撤退した。

1544年に台湾を通過したポルトガルの船員は、最初に船の丸太に「美しい島」を意味するIlhaFormosa島の名前を書き留めました。

1582年、ポルトガルの難破船の生存者は、いかだでマカオに戻る前に、マラリアや原住民との戦いに10週間を費やしました。

16世紀までに、ますます多くの中国人の漁師、商人、海賊が島の南西部を訪れていました。

オランダ人が1623年に到着したとき、彼らは約1,500人の中国人の訪問者と居住者を見つけました。

オランダ東インド会社（VOC）は、アジアの貿易と軍事基地を求めてこの地域にやって来ました。

1622年のマカオの戦いでポルトガル人に敗れ、澎湖を占領しようとしたのですが、明当局によって追い払われました。

その後、台湾南西海岸沖のタヨワン島にジーランディア砦を建設しました。

（この場所は現在、台南の安平にある本島の一部です。）

隣接する本土に、彼らは小さなレンガ造りの砦、フォートプロビンティアを建設しました。

地元の先住民はパカン地域と呼ばれ、いくつかの古い地図では台湾の島はパカンと呼ばれています。

1626年、スペイン帝国は、台湾でのオランダの存在をフィリピンの植民地への脅威と見なし、台湾の北東海岸（現代の基隆）にあるサンティシマトリニダードに集落を設立し、サンサルバドル砦を建設しました。

彼らはまた、1629年に北西部（現代の淡水）に紅毛城を建設しましたが、1638年までにそれを放棄しました。

小さなコロニーは病気と敵対的な地元住民に悩まされ、マニラからの支援はほとんどありませんでした。

オランダの知事、ピーテル・ノイツは日本の浜田弥兵衛との論争に巻き込まれた。

オランダ人は、1633年に中国の鄭芝龍によって味羅湾海戦で敗北しました。

オランダ人は台湾をオランダの植民地に変えることに着手しました。

最初の仕事は、オランダ人に激しく反対していた村を罰し、VOCと忠誠を誓って原住民を団結させることでした。

最初の懲罰遠征は、タヨワン近くのサッカムの北にあるバクロアンとマタウの村に対するものでした。麻豆区のキャンペーンは予想よりも簡単で、村が火事で焼失した後、部族は提出しました。

このキャンペーンは、ティロッセン（現代のチアイ）からロンクジアオ（恒春）までの他の村への脅威にもなりました。

ベヴァウィックの難破した乗組員とゴールドライオンは10年後に終わり、1100人の先住民が島から連れ去られ、そのうち327人のラマヤ人が洞窟で殺され、オランダ人に捕らえられ、オランダ人とその同盟国の先住民によって煙と煙が洞窟に送り込まれました。

男性はバタビア（ジャワ）で奴隷制に追い込まれ、女性と子供はオランダの将校の使用人と妻になった。

ラメイでの出来事は、離島を過疎化する計画が残っていたものの、同盟国の原住民とより緊密に連携するようにオランダの支配の方向性を変えました。

1642年、オランダ人は島の北部からスペイン人を追放しました。

その後、彼らは新しい所有物とタオユアの基地との間の西部平原の支配を確立しようとした。

1645年の短い破壊的なキャンペーンの後、ピーターブーンは大肚王国を含むこの地域の部族を征服することができました。

VOCは、1662年まで島とその主に先住民を管理し、税制を確立し、先住民の言語のローマ字を教え、キリスト教を福音化する学校を設立しました。

その支配は主に島の西部平原に限定されていたが、オランダのシステムは後継の占領者によって採用された。

移民の最初の流入は、オランダの時代にやってきたハッカとホッキエンでした。そこでは、中国本土の海岸からの商人と貿易業者が、オランダから狩猟免許を購入するか、清当局から逃れるために先住民の村に隠れようとしていました。

移民のほとんどは、船乗りや探検家の命を奪ったことで評判が高いことから、ハンが「地獄の門」と呼ぶことが多い島に滞在することを思いとどまらせた若い独身男性でした。

オランダ人は当初、タヨワンにあるゼーランディア城を日本と中国の間の貿易基地として利用しようとしていましたが、すぐに台湾西部の沖積平野に沿って何千もの群れを歩き回る巨大な鹿の集団の可能性に気づきました。

鹿は、武士の鎧の皮を使用するために法外な価格を喜んで支払う日本人からの需要が高かった。

鹿の他の部分は、肉や医療用に漢商人に売られました。

オランダ人は彼らに連れて来られた鹿のために原住民に支払いをし、需要に追いつくために鹿の在庫を管理しようとしていました。

オランダ人はまた、輸出用のサトウキビと米を栽培するためにハンを雇いました。

これらの米とサトウキビ製品のいくつかは、ペルシャの市場にまで達しました。

残念ながら、原住民が生計を立てるために頼っていた鹿は姿を消し始め、原住民は新しい生存手段を採用せざるを得なくなりました。

本土では、満州軍が1644年に山海関を突破し、明王朝を急速に圧倒しました。

1661年、明の忠誠者である鄭成功が率いる海軍艦隊が台湾に到着し、オランダ人をゼーランディアから追放し、台湾に親明の基地を設立しました。

鄭成功は、1624年に長崎県平戸市で中国の商人で海賊の鄭芝龍と日本人女性の田川マツに生まれました。

彼はそこで7時まで育ち、福建省の泉州に引っ越しました。

中国の州。鄭成功は、海運と海賊行為で裕福になった家族の中で、長崎からマカオに広がる父親の貿易ネットワークを継承しました。

福建省での満州の前進に続いて、鄭成功はアモイ（廈門市）の彼の拠点から撤退し、アモイで彼の基地を取り戻すために彼の軍隊をマーシャリングするための戦略的基地を確立することを期待して台湾を包囲しました。

1662年、9か月の包囲の後、鄭成功はオランダの要塞ゼーランディアを占領し、台湾が彼の基地になりました。

1652年の郭懐一反乱でオランダ人と中国人と同盟を結んでいた台湾原住民は、ゼーランディア城包囲戦でオランダ人に反対し、鄭成功の中国軍に敗北した。

シンカンのアボリジニ（フォルモサン）は、恩赦を申し出た後、鄭成功に亡命した。

その後、シンカンアボリジニは中国人のために働き、死刑執行でオランダ人に先んじました。

山と平原のフロンティア先住民も1661年5月17日に降伏し、中国人に亡命し、義務教育からの解放を祝った。

オランダの支配下で、オランダの人々を追い詰め、彼ら为先導し、彼らのキリスト教学校の教科書をゴミ箱に捨てることによ

って。

鄭成功は包囲が終わってから4ヶ月後に亡くなり、彼の将校が息子の鄭経を処刑する命令を実行することを拒否したとき、彼は突然の狂気で死んだという憶測があった。鄭経は乳母と浮気し、子供を妊娠させた。

他の説明はもっと簡単で、鄭成功の死はマラリアの症例に起因している。

鄭成功の死後、息子の鄭経が鄭経政権を引き継ぎ、残りの7,000人の明の忠誠軍を台湾に導いた。

鄭経による襲撃に応じて、そして台湾の軍隊を飢えさせるために、清は鄭経艦隊による襲撃の標的であった南部沿岸の町と港のすべてを移転することを命じ、したがって抵抗のための物資を提供した。

この措置は大部分が裏目に出ており、1662年から1664年の間に、清の移転政策によって生じた深刻な困難に刺激されて、これらの沿岸の町から台湾への6つの主要な移民の波が発生しました。

この清の失敗を利用する動きで、鄭経は強制的な兵役と引き換えに農民のための無料の東部の土地耕作と所有権を約束することによって台湾への移民を促進しました島が清の侵入の危険にさらされていた場合に備えて、すべての男性によって。

1683年、鄭成功の父の信頼できる友人の1人である施琅提督との海軍の交戦の後、鄭成功の孫である鄭克ソが清王朝に降伏しました。

ハン・リテラティが海の向こうにあると考えていた噂の「犬の島」や「女性の島」などとの台湾の関係については、多くの混乱がありました。

台湾は康熙帝によって「文明の蒼白を超えた泥だんご」と公式に見なされ、1683年まで帝国の地図には表示されませんでした。

皇帝に地図を提示する行為は提示することと同等でした。

帝国の土地。清の裁判所が台湾を清の領域の一部として認めるまでには、さらに数年かかりました。

清王朝以前、中国は山、川、海に囲まれた国として考えられていました。

台湾を帝国の領域に持ち込んだ軍事および外交的キャンペーンの費用にもかかわらず、北京の一般的な感情はあいまいでした。

キャンペーンのポイントは、島を征服することではなく、鄭家政権を破壊することでした。

康熙帝は、台湾は「ペレットの大きさであり、取るのは利益ではなく、受け取らないのは損失ではない」（彈丸之地。得之無所加、不得無所れ）という感情を表明した。

彼の大臣は、島は「海の向こうの泥だんごであり、中国の広さに何も加えない」（海外泥丸、現為中國加廣）と助言し、中国本土にすべての中国人を連れ去って島を放棄することを提唱した。

それは施琅提督のキャンペーンだけでした皇帝に台湾を放棄しないように説得した他の支持者。

信頼できない情報源？鄭成功の信奉者たちは、台湾からより不快な場所へと出発することを余儀なくされました。

1682年までに、彼らは先住民の女性と結婚し、台湾に財産を持っていたため、台湾に残った中国人は7000人しかいませんでした。

鄭成功の治世は、オランダの税制を継続し、学校や宗教的な寺院を設立しました。

1683年から清王朝は島の一部を台湾府として統治し、1875年に島を南北の2つの県に分割しました。

1887年、この島は独立した福建省-台湾省として宣言されました。

清当局は、移民が彼らの家族と先祖の墓に戻ることを確実にするために、台湾への移民を制限し、家族が台湾に旅行することを禁じようとしていました。

不法移民は続いたが、多くの男性は戦争に疲れた福建省での見通しがほとんどなく、地元で結婚したため、「唐山[a]父、唐山母なし」というイディオムが生まれた（中国語：有唐山公、無唐山媽；Peh -ōe-jī : Ūt̄ng-soa^hkong, bōt̄ng-soa^hmá）。

清は先住民の土地請求を保護しようとしていましたが、それらを納税対象に変えようとしていました。

中国人と税金を払っている原住民は、非納税の高地の原住民の怒りを引き起こし、反乱を扇動することを恐れて、島の大部分を覆っている荒野に入るのを禁じられました。

不法占拠を阻止するために、「土牛」と呼ばれる土の穴と山を使用して建設された国境が西部の平原に沿って建設されました。

初期のハン入植者

1683年から1760年頃まで、清政府は台湾への移民を制限していました。

このような制限は1760年代以降緩和され、1811年までに台湾には200万人以上の中国人移民がいました。

1875年に福建省の管轄下に台北府が設立されました。

また、中国人移民の間で様々な紛争がありました。ほとんどの紛争は、福建省の漢民族と広東省の漢民族の間、福建省のさまざまな地域の人々の間、漢民族と客家の入植者の間、または単に氏族の確執に従事するさまざまな名前の人々の間でした。

これらの移民が持つ強い地方の忠誠のために、清政府は台湾を統治するのが幾分難しいと感じました。台湾も外国の侵略に悩まされていました。

1771年、モーリツベニョフスキーは、ヨーロッパで最初の船に台湾の東海岸（清の権威下になかった）を訪問するよう命じ、地元の人々との一連の激しい紛争に巻き込まれました。

台湾の戦略的および商業的価値を考えると、1840年と1841年に島を占領するという英国の提案がありました。

1841年9月、アヘン戦争中、イギリスの輸送船ネルブダは台風のために基隆港の近くで難破した。

ブリッグアンも1842年3月に難破しました。

乗組員のほとんどはインドのラスカーでした。

両船の生存者は当局によって首都台南に移送されました。

台湾清朝統治時代のタフアとヤオインは、基隆砦からの攻撃に対して防御したと主張して、皇帝に不誠実な報告を提出しました。

1841年10月、HMS Nimrod基隆に航海してネルブダの生存者を探したが、ジョセフ・ピアス大尉は彼らが投獄のために南に送られたことを知った後、港への砲撃を命じ、27セットの大砲を破壊してから香港に戻った。

生存者のほとんど（ネルブダから130人以上、アンから54人以上）が1842年8月に台南で処刑された。

アボリジニはしばしば西洋船の難破した乗組員を虐殺しました。

1867年、ローバー号のアメリカ人乗組員全員が、ローバー号事件で先住民に虐殺されました。

アメリカ人が報復として懲罰的なフォルモサ遠征を開始したとき、先住民はアメリカ人を打ち負かし、彼らを退却させ、犠牲者を出さずにアメリカ海兵隊を殺害した。

清仏戦争中、フランスは1884年の基隆の戦いで台湾への侵攻を試みた。

台湾の防衛を主導していた劉明川は、フランスとの戦いで中国の兵士と一緒に奉仕するためにアボリジニを募集した。

フランス人は淡水の戦いで敗北した清軍は、フランス軍が撤退する前の8か月にわたるキャンペーンで、基隆でフランス軍を拘束した。

これらの侵略により、清政府は一連の沿岸防御の構築を開始し、1885年に劉銘伝を初代知事として台湾を州にするための作業が開始されました。

彼は台湾を11の郡に分割し、原住民との関係を改善しようとしました。

彼はまた、台北から新中への鉄道を開発し、基隆に鉱山を設立し、外国人に対する台湾の防御能力を向上させるために兵器庫を建設しました。

1871年の冬に台湾南東端で琉球船が難破し、宮古島民事件で54人の乗組員の頭が台湾原住民のパイワン族に奪われた後、日本人はこの事件を口実として使用しようとしていました。

清に琉球諸島に対する日本の主権を日本の領土として正式に認めさせ、台湾への潜在的な拡大に対する反応をテストする。

日本の文書の記録によると、毛昶煥 [zh] と董恭子 [zh]、総理ヤメンの清大臣日本の使節柳原樺光 [ja] からの苦情を処理した人は、最初に、日本人ではなく琉球人の虐殺について聞いただけであると答え、琉球は中国の宗主国であり、したがってこの問題は日本のビジネスではなかったとすぐに気づいた。

さらに、青州の福建省総督は、虐殺の生存者を救出し、無事に琉球に戻しました。

清当局は、台湾には2種類の原住民がいると説明しました。

清によって統治されている原住民と、不自然な「清の政府や慣習の範囲を超えた生の野蛮人」です。

彼らは、先住民が定住するこれらの地域を旅行する外国人は注意を払わなければならないことを間接的にほのめかした。

柳原・ヤメンのインタビューの後、日本人は、清政府が琉球諸島の主権を主張することに反対せず、台湾原住民の管轄

権を放棄し、実際に日本の台湾遠征に同意したと説明した。

清王朝は、台湾が清の管轄内にあることを日本人に明らかにしましたが、その島の先住民の一部はまだ中国文化の影響を受けていませんでした。

清はまた、国境内の先住民がその国の支配的文化によって完全に征服されなかった世界中の同様の事例を指摘した。

それにもかかわらず、日本人は1874年に3600人の兵士の力で牟田村への遠征を開始しました。

殺されたパイワンの数は約30人であり、日本人のそれは6人でした。結局、日本人は清から巨額の補償金を支払われた後、撤退した。

この事件により、清は海上防衛戦略における台湾の重要性を再考し、荒野地域の支配権を獲得することがより重要視されました。

日清戦争の前夜、島の約45%が清の直接管理下に置かれ、残りはアボリジニがわずかに住んでいました。[56]約250万人の人口のうち、約230万人が漢民族であり、残りの20万人はさまざまな先住民族のメンバーとして分類された。

日清戦争敗北の和解の一環として、清帝国は下関条約の条項に従い、1895年4月17日に台湾と澎湖の島々を日本に譲渡しました。

台湾の喪失は、その後の数年間で中国民族主義運動の結集点となるでしょう。

日本は、豊臣秀吉が海外への拡大と日本の影響力を南方および西方に拡大する政策をとった1592年以来、台湾（高砂国として知られている）の主権を主張しようとしていた。

西側では、日本はその時期に韓国を侵略し、最終的には中国の征服が企図された。南部では、台湾への最初の侵略の試みとその後の3世紀にわたる散発的な侵略の試みは、主に島の原住民による病気と攻撃のために失敗しました。

1609年、徳川幕府は有馬晴信を島の探検隊に派遣しました。

村山等安が率いる1616年の侵略の試みは、台風によって艦隊が分散し、島に到達した唯一の船が撃退されたときに失敗した。

1871年の宮古島民事件では、台湾の南端で沖縄の船が難破し、54人の乗組員がパイワン族の原住民に首をかしげられました。

清政府が補償を拒否した後、先住民はその支配下ないと述べ、日本は1874年にこの地域への懲罰遠征を開始し、清が補償を支払うことを約束した後に撤退した。

1894年から95年にかけて日清戦争で中国海軍が敗北し、ようやく日本が台湾を掌握できるようになり、アジアの支配が中国から日本に移りました。

下関条約は1895年4月17日に調印され、台湾と澎湖諸島を日本に譲渡しました。この条約は、第二次世界大戦で敗北するまで50年間島を統治していました。

台湾の主権を受け取った後、日本人は、短命の台湾民主国の地元のエリートによる設立に続いた台湾人からの軍事的抵抗を恐れました。

台湾のエリートは、共和国を宣言することによって、世界が待機せず、主権国家が日本人に侵略されることを許さないことを望んでいたため、清と同盟を結びました。

緑営軍とユエ族の兵士が台湾を略奪し略奪するようになったため、計画はすぐに混乱に転じました。中国人の手による混乱か日本人への服従のどちらかを選択したことから、台北のエリートは辜顕榮を基隆に送った。

前進する日本軍を台北に進めて秩序を回復するように誘う。

武力抵抗は散発的であったが、時には激しいものであったが、1902年までに大部分が崩壊したが、その後、台南県での1915年の西来庵事件を含む比較的軽微な反乱が発生した。

非暴力的な抵抗手段が武装反乱に取って代わり始め、最も著名な組織は1921年に設立された台湾文化協会でした。

台湾の抵抗はいくつかの異なる要因（例えば、大正デモクラシー）によって引き起こされました。いくつかは中国のナショナリズムに惑わされたが、他の人は初期の台湾人の自己決定を含んでいた。

反乱はしばしば、地元のエリートに対する不平等な植民地政策の影響と、地元の台湾人と平埔族の現存する千年王国の信念の組み合わせによって引き起こされました。

文化変容と平和化という日本の強硬な政策に対する先住民の抵抗は、1930年代初頭まで続いた。

樟脳摘出の厄介な仕事に従事している間、タイヤル族が彼らの治療に腹を立てた1930年後半の霧社（ウシェ）蜂起である最後の主要なアボリジニの反乱は、150人以上の日本人職員が殺された最後の首狩り党を立ち上げた。

学校の開会式で首を絞められました。

モナ・ルダオが率いる蜂起、毒ガスの助けを借りて、2,000~3,000人の日本軍とアボリジニの助動詞によって押しつぶされました。

島の日本の植民地化は3つの段階に分類されました。

それは取り締まりと父性主義的支配の抑圧的な期間から始まりました。

第二段階は、第一次世界大戦後にウッドロウ・ウィルソンによって提案された民族自決（民族自決）に触発された台湾のナショナリストによって宣言されたすべての人々（人種）を同様に扱うことを目的としたドーカ（同化）期間でした。

最後に、第二次世界大戦中、台湾人を日本の天皇の忠実な主題に変えることを目的とした政策であるコミンカ（皇民化）の期間。

台湾の大衆の間で日本の支配に対する反応は異なっていた。

一部の人々は、私生活と財産の安全が最も重要であると感じ、日本の植民地当局と協力しました。

台湾人の第二のグループは、そのような行動が日本人と平等な地位につながると信じて、帝国の主題になることを熱望していました。

3番目のグループは台湾の独立に影響を受け、日本の植民地を排除して台湾原住民の支配を確立しようとしていました。一方、4番目のグループは中国のナショナリズムの影響を受け、台湾を中国の支配に戻すために戦った。

1897年以降、この最後のグループは多くの反乱を上演しました。

最も有名なグループはLuo Fuxing [zh], 1913年に200人の仲間とともに逮捕され処刑された。羅自身は孫文によって設立された組織である同盟会のメンバーであり、国民党の前身であった。

抵抗のいくつかの戦略が着手された。

初期のインフラ開発は迅速に行われました。

台湾銀行は、三菱や三井グループを含む日本の民間部門に台湾への投資を奨励するために1899年に設立されました。

1900年、台湾の第3総督は予算を可決し、基隆（基隆）から高雄（高雄）までの台湾の鉄道システムの構築を開始しました。

1905年までに島は日月潭（日月潭）の水力によって電力を供給されていました）、そしてその後、台湾は東アジアで2番目に発展した地域（日本に次ぐ）と見なされました。

1905年までに、台湾は財政的に自給自足になり、日本の中央政府からの補助金から切り離されていました。

後藤新平知事の統治下で、多くの主要な公共事業が完了しました。

南北を結ぶ台湾の鉄道システムと、ケルン港とタカオ港の近代化が完了し、原材料と農産物の輸送と輸送が容易になりました。

輸出は4倍に増加した。

農地の55%は、ダムが支援する灌漑システムで覆われていました。

1895年から1925年の間に食糧生産は4倍に増加し、サトウキビの生産は15倍に増加し、台湾は日本の産業経済に役立つ主要な食料バスケットになりました。

医療制度が広く確立され、感染症ほぼ完全に根絶されました。台湾の居住者の平均寿命は1945年までに60年になるでしょう。

1935年10月、台湾総督は「台湾総督40周年記念博覧会」を開催し、日本の統治下での台湾の近代化プロセスの成果を紹介しました。

これは、日本人教育を受けた陳儀を派遣した中華民国の国民党（KMT）政権を含め、世界中の注目を集めました。

彼は、台湾の発展における日本政府の効率性について称賛を表明し、台湾人がそのような効果的な政権の下で生きることがどれほど幸運であったかについてコメントした。

皮肉なことに、Chen Yiは後にROCの最初の台湾最高経営責任者になり、彼の監視下で発生した汚職で悪名高いことになりました。

日本の統治の後期には、地元のエリートが教育を受け組織化されました。

1930年代に、世界中の他の人々が植民地主義を終わらせようとしたときに、いくつかの自治グループが創設されました。1935年、台湾人は初めて地方議員のグループを選出しました。

1945年3月までに、日本の立法府は、日本の国会で台湾の代表を認めるように選挙法を急いで修正しました。

日本は1937年に中国で本格的な戦争に着手したため、台湾の戦争資材製造能力を拡大しました。

1939年までに、工業生産は台湾の農業生産を上回りました。

同時に、「光民家」帝国化プロジェクトが進行中であり、台湾の住民に「日本の精神」を浸透させ、台湾人が戦時中に犠牲を払う準備ができていた日本の天皇の忠実な主題であり続けることを保証しました。

日本語教育、日本人の名前を採用するオプション、日本の宗教の崇拜などの措置が講じられました。

1943年には、子供たちの94%が6年間の義務教育を受けました。

1937年から1945年まで、126,750人の台湾人が日本帝国の軍隊に加わり、奉仕しました。

1942年から1945年の間にさらに80,433人が徴兵されました。

合計の30,304人、つまり15%が、日本のアジア戦争で亡くなりました。

大日本帝国海軍は台湾から大規模に活動しました。

「サウスストライクグループ」は、台湾の台湾帝国大学（現在の国立台湾大学）を拠点としています。

台湾沖航空戦に参加した日本軍の多くは台湾を拠点としていました。

高雄（現在の高雄）のような台湾中の重要な日本の軍事基地と産業センターは、アメリカの激しい爆撃の標的でした。

1942年、米国が日本との戦争に突入した後、中国側では、KMTに基づく中国政府は、その日より前に日本と締結したすべての条約を放棄し、台湾を中国に返還させました（満州と同様に、日本の戦時中として支配されました）。

戦時中の目的の一つである「満州国」の傀儡国家。1943年のカイロ宣言で、連合国は台湾の帰還を宣言しました（澎湖諸島を含む）いくつかの連合国の要求の1つとして中華民国に。カイロ宣言は署名も批准もされておらず、法的拘束力はありません。1945年、日本は無条件降伏の文書に署名して降伏し、1945年に国連救済復興局によって領土が中華民国政府の管理下に置かれたため、台湾での統治を終了しました。

サンフランシスコ平和条約第2条の規定による、日本人は台湾と澎湖諸島の領土主権を正式に放棄し、条約は1951年に署名され、1952年に発効しました。

サンフランシスコ平和条約が発効した日、台湾と澎湖諸島の政治的地位はまだ不確かです。

中華民国と日本は、1952年4月28日に中華民国条約に署名し、条約は8月5日に発効した。

「第二次世界大戦後の和平条約はいずれも、対象地域の主権を特定の州や政府に明示的に譲渡しなかった」と述べた。

1943年11月22日から26日までエジプトのカイロで開催されたカイロ会議は、第二次世界大戦中の日本に対する連合国の立場に取り組み、戦後のアジアについて決定を下すために開催されました。

カイロ宣言の3つの主要な条項の1つは、「満州、フォルモサ、ペスカドーレスなど、日本が中国から盗んだすべての領土を中華民国に回復する」というものでした。

しかし、多くの人が、この文書は単なる意図の表明であると異議を唱えました。または拘束力のない宣言。戦後の平和条約を起草する人々に使用される可能性のある参考資料であり、プレスリリースとして、台湾から中華民国に主権を譲渡することは法の力がなかった。

この主張を裏付ける追加の根拠は、降伏法、およびSCAP一般命令番号です。1、日本の領土ではなく、日本軍の降伏を承認した。

中華民国は1945年9月に台湾省政府を設立し、1945年10月25日に「台湾光復節」と宣言した。

これは日本軍が降伏した日です。

布告の有効性は、一部の支持者でそれは無効であり、日付は現在まで続く軍事占領の始まりを示すだけであると主張する。

1938年までに、約309,000人の日本人が台湾に住んでいた。

1945年の日本の台湾降伏から1946年4月25日までの間に、中華民国軍は台湾に住む日本人の90%を日本に帰国させました。

戦後間もなく、台湾の国民党（KMT）政権は、以前の日本の統治に比べて抑圧的で非常に腐敗しており、地元の不満を招いた。

1947年2月28日、タバコの売り手が負傷し、通行人が国家主義当局によって無差別に射殺された事件をきっかけに、反本土の暴力が爆発した。

2月28日の事件として知られるようになった国民党政権によるその後の取り締まりの間に、何万人もの人々が殺害または逮捕され、事件は戒厳令時代 全体の議論のタブートピック。

1930年代以降、中国本土では、蒋介石のROC政府と、毛沢東が率いる中国共産党との間で国共内戦が進行していた。

共産主義者が1949年に中国本土の完全な支配権を獲得したとき、主に国民政府、軍隊、および経済界からの200万人の難民が台湾に逃げました。

1949年10月1日、勝利した共産主義者によって中華人民共和国（PRC）が中国本土に設立されました。数ヶ月前、蒋介石は台北に暫定ROC首都を設立し、南京を移転しました。

そこに拠点を置く政府。ナショナリストの支配下では、本土の人々が政府と公務員を支配していました。

第二次世界大戦直後、戦後の経済情勢とその後の中国内戦が相まって、中国本土と台湾で深刻なインフレを引き起こし、悲惨な通貨改革と汚職によって悪化しました。

これは、再建プロセスと新しい改革に道を譲りました。

国民党は、第二次世界大戦前に日本人が所有していた台湾の独占を支配した。

彼らは台湾のGNPの約17%を国有化し、台湾の投資家が保有する日本の債券証明書を無効にしました。

これらの不動産保有と、中国援助法や中米農村復興合同委員会などのアメリカの援助は、台湾が戦争から迅速に回復することを確実にするのに役立った。

国民党政府はまた、金準備全体を中国本土から台湾に移し、この準備金を使用して、新たに発行されたニュー台湾ドルを支援し、新通貨を安定させ、ハイパーインフレーション。

KMT当局は、1950年代に、台湾で広範囲にわたる大成功を収めた農地改革プログラムを実施しました。375家賃削減法は、農民への税負担を軽減し、別の法律は、小規模農家の間で土地を再分配し、大地主に国有企業の商品証明書と株を補償しました。

これにより一部の大地主は貧困に陥りましたが、他の大地主は彼らの補償を資本に変え、商業および工業企業を始めました。

これらの起業家は、台湾で最初の産業資本家になる予定でした。

中国本土から逃亡したビジネスマンと一緒に、彼らは再び日本の繁栄とともに以前は止まっていた台湾の繁栄を復活させ、台湾の農業から商業、産業経済への移行を管理しました。

1950年から1965年まで、台湾は米国から合計15億ドルの経済援助と24億ドルの軍事援助を受けました。

1965年、台湾が強固な財政基盤を確立したとき、すべてのアメリカの援助は停止しました。

それを達成した後、ROCの蔣経国 総統[88]（蒋介石の息子）は、強力な輸出主導型経済を構築するためのインフラを提供する十大建設プロジェクトなどの国家プロジェクトを開始した。

台湾は着実に主要な国際貿易大国に発展し、双方向貿易で2,180億ドルを超え、最も高い外貨準備の1つとなっています。

世界中。島の途方もない繁栄は、経済的および社会的安定を伴っていました。

台湾の驚異的な経済発展は、アジア四小龍の1つとしての地位を獲得しました。

1970年代初頭まで、中華人民共和国は国連とほとんどの西側諸国によって唯一の合法的な中国政府として認められていました。

冷戦のために中華人民共和国を認めることを拒否した人。国民党は、共産主義者の侵入に警戒し、中国本土を奪還する準備をするという目標を掲げて、1980年代後半まで戒厳令の下で台湾を統治しました（国光計画）。

したがって、政治的異議は容認されませんでした。

1970年代後半から1980年代初頭は、もともと経済の変化によって抑圧され、取り残されていた多くの人々が台湾の新しい中産階級のメンバーになったため、台湾で生まれた中国人にとって激動の時代でした。

自由企業は、台湾原住民が基本的人権の尊重を求める強力な交渉チップを獲得することを可能にしました。[要出典]高雄事件は台湾の民主主義の大きな転換点でした。

台湾はまた、国際的な領域で挫折に直面しました。

1971年、中華民国政府は、北京の中国政府を国連における中国の議席の正当な保有者として認める直前に、国連を脱退しました。

1971年10月、決議2758国連総会で可決され、「蒋介石の代表者」（したがってROC）は国連から追放され、「中国」として

中国に取って代わられました。

1979年、米国は認識を台北から北京に切り替えました。

蒋介石は1975年4月に亡くなり、嚴家淦が大統領に就任し、息子の蔣経国が国民党の指導に就いた（蔣経国王の称号ではなく「議長」の称号をとることを選んだ）。

かつて恐れられていた秘密警察の長であった蔣経国は、ROCの将来の安全を確保するために外国の支援を得ることを認め、改革が必要でした。

彼の政権は、政治的統制の漸進的な緩み、民主主義への移行、そして政権の台湾化への動きを見ました。

ナショナリストの反対派は、もはや会議を開いたり、論文を発表したりすることを禁じられていませんでした。

野党の政党は依然として違法であったが、1986年に民主進歩党が最初の野党として設立されたとき、チェン大統領はグループの解散や指導者への迫害に反対することを決定した。

その候補者は、Tangwai運動の無党派として公式に選挙に出馬した。翌年、チェンは戒厳令を終了し、中国本土への家族の訪問を許可しました。

チェンは李登輝を選んだ、台湾生まれのテクノクラートが副社長に就任。大統領の継承順位の最初のもの。この動きは他の改革に続き、先住民に生まれた市民により多くの力を与え、反KMT感情を落ち着かせました。

蔣経国が1988年に亡くなった後、彼の後継者である李登輝大統領は政府の民主化を続けた。李氏はより多くの政府権力を台湾生まれの市民に移し、台湾は台湾化の過程を経た。

このローカリゼーションプロセスでは、地域の文化と歴史が汎中国の視点で促進されました。

李氏の改革には、通常の台湾銀行ではなく中央銀行からの紙幣の印刷が含まれていました。

彼はまた、台湾省政府の運営を大幅に停止しました。

1991年に立法院と国会1947年に選出された人は辞任を余儀なくされました。

これらのグループは元々、中国本土の構成員を代表するために作成されました。

放送メディアや学校での台湾語の使用制限も解除されました。

しかし、李首相は政府に蔓延した大規模な汚職を取り締まることができず、多くのKMT支持者は、李首相が改革をやりすぎてROCを裏切ったと感じ、反対派は改革を十分に受けなかったと感じた。

李氏は、1996年の台湾初の直接大統領選挙で、DPP候補で元反体制派の彭明敏氏に対して現職として立候補した。

この選挙により、中国は台湾海峡で一連のミサイル実験を実施し、台湾の有権者を威嚇し、有権者が他の統一支持候補者である陳李庵と林洋港に投票するようになった。

攻撃的な戦術により、クリントン米大統領は台湾関係法を発動し、2隻の空母戦闘グループを台湾の南海岸沖に派遣して状況を監視し、中国のミサイル実験は計画よりも早く終了することを余儀なくされた。

この事件は、1996年台湾海峡危機。

リーの大統領としての最後の行動の1つは、ドイツのラジオで、ROCと中国が特別な国家間の関係を持っていることを宣言することでした。

李氏の声明は、福建省で軍事演習を実施している中国の人民軍と台湾での恐ろしい島全体の停電に遭遇し、多くの人が攻撃やサイバー攻撃を恐れるようになりました。

2000年の大統領選挙は、国民党（KMT）の規則の終わりを示しました。

DPP候補の陳水扁は、独立したジェームズ・スン（元国民党）と国民党の連戦候補によって泛藍連盟の票が分割された三者間レースに勝った。

陳は投票の39%を獲得しました。

選挙後、スンは親民党（PPF）を結成した。

2004年、陳大統領は選挙の前日に行われた暗殺未遂の後、2番目の4年の任期に再選された。

2発の銃弾が発射され、1発はジープのフロントガラスと数層の衣服を貫通した後、大統領の腹をかすめ、もう1発はフロントガラスを貫通して副大統領の膝のキャストに当たった。

彼女は以前の怪我のために膝をかぶっていた。

警察の捜査官は、最も可能性の高い容疑者は後に死んでいるのが発見されたチェン・イーヒョンであると信じられていると

言った。

彼らの負傷は生命を脅かすものではなかったが、この事件は、結果に影響を与えるのに十分な共感を得たとパンブルーによって信じられている。

その事件はまた、陳大統領に非常事態宣言と戒厳令を宣言する能力を与えたかもしれない。

それは、強くパンブルーであった警察と軍隊が投票するのを妨げたとされている。

リエンは、投票の不規則性を主張して、譲歩を拒否した。

国民党とPPFの支持者は、その後数週間にわたって大規模な抗議行動を行った。

その後、国民党とPPFが訴訟を起こした。

高等裁判所は再集計を命じましたが、国民党とPPFによる告発を裏付ける証拠は見つかりませんでした。

裁判所は、選挙結果は合法かつ有効であると判断しました。

2004年12月8日に行われた立法選挙では、国民党とPPFが支配する泛藍連盟が選挙で過半数を獲得し、陳大統領がDPP議長を辞任した。

游錫堃首相の内閣は辞任し、謝長廷は2005年1月25日に首相に就任した。

その動きで陳氏の再選への反応として見られた中華民国は、正式に独立を宣言した場合に台湾と中華民国政府に武力を行使することを認める反分裂国家法案を制定した。

しかし、この法律は、ほぼすべての政党と中華民国の公人からの圧倒的な抗議と西側諸国からの不承認に直面しました。

1月にマカオで中華民国と中華人民共和国の両方の航空当局との間で交渉が行われた結果、旧正月の間に中国本土と台湾の間で兩岸定期チャーター便が直行しました。

ひねりを加えた出来事の中で、陳大統領とスnPFP議長は首脳会談を開き、独立志向の大統領は、中国本土との最終的な統一が選択肢になるだろうと述べた。

中華人民共和国によって提案された反分裂国家法に反対して、陳大統領はブリュッセルで欧州議会とのビデオ会議を開催し、欧州連合に中華人民共和国への武器禁輸を解除しないように促した。

国民党とPPFが一緒になって議会で泛藍連盟の過半数を占めたため、陳政権時代の国内政治は主に政治的膠着状態でした。

政治的停滞のためにほとんど進展しなかった多くの項目の中には、米国からのサブハンティングP-3オリオンなどの武器の購入を通じて中華民国の防衛能力を向上させるであろう停滞した武器調達法案がありました。

政府、および銀行改革法は、中華民国の多くの銀行の統合に役立ったであろうが、そのどれもが地方市場の10%のシェアさえ持っていない。

中華民国総統は、米国大統領とは異なり、拒否権を行使しません。

過半数がどれほどスリムであるかにかかわらず、野党議会との交渉において彼にほとんどまたはまったく力を与えない。

憲法は2005年にさらに改正され、単一メンバーの複数議席と比例代表議席を備えた2票の選挙制度が創設され、国会が廃止され、以前の権限のほとんどが立法院に移管され、さらなる改正投票が公に残された。

国民投票。台湾の独立を正式に宣言するという問題も、憲法上の問題です。米国からの武器購入は依然として物議を醸す政治的問題であり、泛藍連盟は購入を支持し、泛藍連盟はそれに反対している。

第一家族内の汚職に関する最近の申し立ては、陳水扁大統領を追放することを目的とした立法院での3回のリコール動議投票につながった。

泛藍連盟がプロセスを完了するために必要な過半数の3分の2を欠いており、政党が政党に従って投票したため、それらはすべて失敗しました。

ファーストレディのウー・シュチェンは、汚職、つまり個人的な理由で国の資金を違法に使用したことで起訴されました。

大統領は妻と同様の告発に直面したが、大統領の免責により起訴から保護された。

彼は妻が有罪になった場合は辞任することを約束していた。しかし、妻が準備聴聞会で気を失った後、陳水扁大統領の任期が完了する前に、彼女は健康上の懸念を理由に16回、裁判所からの休暇を求めて取得しました。

2006年12月、台北と高雄で地方選挙と市長選挙が行われました。

国民党は首都で明らかに過半数を維持しましたが、国民党と国民党は高雄の南部の都市で非常に近い結果を得ました。

HuangChun-yingはChenChuに0.14%の差で負けました。

378,303票から379,417票になり、ChenChuは中華民国の特別自治体の最初の女性市長になりました。

2007年、ROCは「台湾」という名前で国連への加盟を申請し、総会で却下されました。

2007年、陳大統領は、台湾が独立を望んでいると実質的に述べている、4つの欲求と1つの欲求のない政策を提案しました。

台湾はその名前の修正を望んでいます。

台湾は新しい憲法を望んでいます。

台湾は開発を望んでいます。

そして台湾の政治は左か右の問題がなく、統一か独立の問題だけです。

台湾の一般市民におけるこの提案された政策の受容は不明確でした。

しかし、それは中国と米国の両方からの冷淡な歓迎を受けた。

中国の外務大臣は、反分裂国家法は強制力のない法律の一部ではないことを強調した一方、米国国務省のスポークスマン、ショーン・マコーマックは、チェンの政策を「役に立たない」と述べた。

国民党はまた、2008年1月の立法院選挙で立法院の支配権を維持した。

2008年5月の大統領選挙では、国民党の馬英九候補が中国本土との友好関係と経済改革を支援するプラットフォームで走り、国民党候補の謝長廷を58.48%の票で破った。

チェン大統領が大統領の免責を失って辞任した同日に、最高検察庁はチェンに関する汚職容疑の調査を開始すると発表した。

2008年後半、元国家安全保障会議の書記長である邱義仁と法務省調査局の元長官であるイエ・シェンマオを含む彼の政権のメンバーが汚職容疑で逮捕された。

邱義仁は無罪とされ、イエ・シェンマオは有罪判決を受け、懲役10年の刑を言い渡された。

馬は再選され、2012年1月の合同選挙で、国民党は立法院で過半数を維持した。

2014年3月と4月、国民党が使用した非民主的な方法に抗議する学生が国会議事堂を占領しました。

結局、政府は、適切な議論なしに中国との合意の批准を保留することに合意した。

この出来事は広範囲に及ぶ結果をもたらし、有権者の気分を変えました。

2016年1月の合同選挙では、民主進歩党の蔡英文大統領候補が56%の得票率で勝利し、民主進歩党は議会で圧倒的多数を獲得しました。

選挙は、国民党以外の政党が議会で過半数を獲得したのは初めてのことでした。

2018年11月24日に行われた選挙は、DPPの過半数に大きな後退をもたらし、蔡英文大統領が党首を辞任することになった。

DPPは合計9議席を失い、22議席の過半数を国民党が支配した。

KMT市長候補は、新北市、台中、高雄で勝利しました。

高雄は20年間DPPの政治的拠点でした。

2020年1月、蔡英文が大統領選挙で再選された。

議会選挙では、蔡英文大統領の民主進歩党（DPP）が113議席のうち61議席を獲得した。

国民党（KMT）は38議席を獲得した。